

九州工業大学より感謝状を拝受

2017年4月24日（月）、当社が九州工業大学大学院生命体工学研究科に寄附講座「プロアクティブメンテナンス（TAKADA）」を開設し、15年にわたって教育研究活動に大きく貢献した功績に対し、九州工業大学 尾家学長より高田社長に感謝状が贈呈されました。

本講座は、各種産業分野における様々な製造プラントの保全方式において、従来の予知保全を進化させた劣化防止型保全（プロアクティブメンテナンス）に資する設備診断技術に関連する教育研究を行うことを目指し、2002年5月1日に開設されました。現在は当社から安西敏雄氏を客員教授、中野光一氏を特任教授として派遣しており、九州工業大学殿の人的資源、技術情報、研究設備を利用させていただき、日々研究開発に取り組んでおります。これまで、多変量情報理論による回転機械の状態診断の開発・実用化、回転機械の遠隔オンライン診断システムの開発、材料劣化に関する評価・診断・修復技術の開発・実用化、微生物による材料劣化とメカニズムに関する研究、高窒素ステンレス鋼の溶接部の性能に関する研究、超音波援用切断装置開発に関する技術支援など当社の新たな技術商品を創出するための研究開発を行ってきました。また、講座内研究会を設置し、各種の調査・検討や新たな技術分野の基礎知識・高度知識習得の助勢など、当社技術本部の技術アドバイザーとして将来における技術担保を下支えする役割も担ってきました。

大学院生の研究指導につきましては、基幹講座から優秀な学生を預かる形で実施しており、これまで担当した学生は延べ19名に及びます。国内および海外における各種学会の学術講演会やシンポジウムなどにて研究発表や講演を実施しており、2017年6月22日（木）に開催された平成29年度 一般社団法人溶接学会九州支部研究発表会では指導学生が優秀学生講演賞を受賞しました。

今後も引き続き当社を支える研究開発拠点として、教育研究活動はもとより更なる事業貢献に向け、研鑽を積んでまいりますので、本講座に対するご理解、益々のご支援を頂きますようお願い申し上げます。



尾家学長（写真左）と高田社長



贈呈された感謝状